

2018年6月12日

お知らせ

いすゞ、ドライバー異常時対応システムを搭載した次期大型観光バスについて

-Emergency Driving Stop System(EDSS)-

いすゞ自動車株式会社(本社：東京都品川区、社長：片山正則、以下「いすゞ」)は、バス運転中の乗務員の疾病等により、運転を継続することが困難になった場合に備え、車両の走行停止を含む「ドライバー異常時対応システム(EDSS：Emergency Driving Stop System 以下「EDSS」)を次期大型観光バスに装着し近日中に発売をする予定です。

このシステムは運転中の乗務員が安全に運転できない状態に陥った場合に、乗務員か添乗員が非常ブレーキスイッチを押すか、乗客が客席上部に設置された非常ブレーキスイッチを押すことで、車両を緊急停止させ、同時に、車外に対してホーンを鳴らすと共にハザードランプとブレーキランプを点滅させ異常を知らせます。

いすゞは、今後このEDSSを順次いすゞバスシリーズに搭載し安心・安全な交通社会の実現に貢献してまいります。

以上